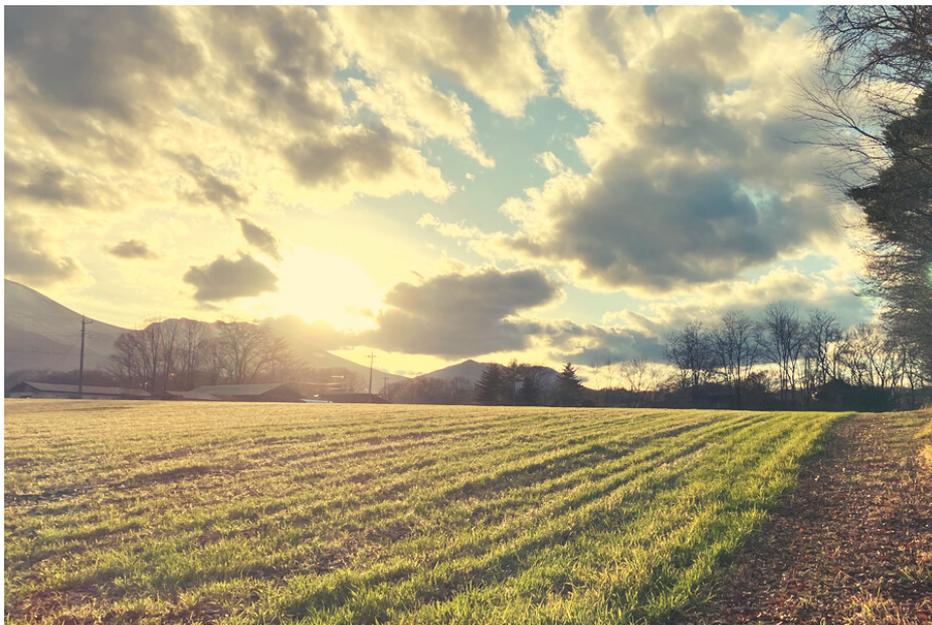


地域未来を巡る旅、はじめます。



コラム「つるエネメソッド」 ——でんきをつくる——

連載コラム「つるエネメソッド」。

今回は、「でんきをつくる」をテーマに考えたいと思います。

まず最初に、寂しいお話から。電力事業をしていて思うのは、この業界は嫌われ者だということです。電力というと、環境汚染をしたり、景観破壊をしたり、良い印象がないからでしょう。

一方で今月号の「グラフで一目瞭然」でお伝えしたように、人間のエネルギー消費量はとにかく鰻登り。誰もが当たり前のように使うエネルギーを、もうちょっとフレンドリーに考えてほしいなと思っています。

というのも、何と言っても私たちはエネルギーを使って生きているからです。さらには、エネルギーを猛烈に使ってきたからこそ、便利な世の中になったということです。

ですが、環境汚染、二酸化炭素、気候変動による災害も深刻化する中で、まさに自分ごと化してエネルギーを考える必要があるのも事実、ではないでしょうか。

日本は自然エネルギーである太陽光・風力・水力・バイオマスの普及に取り組んでいます。それぞれメリット・デメリットがありますが、日本で現状、一番取り組みやすいのは、太陽光発電ではないでしょうか。もしくは、熱エネルギーを直接受け取るという意味で、薪ストーブなんかもありますね。

つるエネとしては、まずはエネルギーの生産者になってほしいということをお伝えしています。食べ物と一緒に、まずは作ってみる。そこから見える景色があると思うからです。

実は、筆者である私の実家は農家です。野菜を作る現場から見たら、形の汚い作物は捨てられたりするのですが、食べると美味しいから、不格好なトマトなどをよく食べていました。なんで捨てるんだろうなって思っていました。でも、安くて・早くて・美味しい、完全無欠なモノを欲しがるのは当然なのかもしれません。

エネルギーも一緒です。すべての社会解決ができて、便利で、快適なエネルギーを、自分が嫌な思いをしないで欲しい。でもそうすると、目に見えないどこかで負担のしわ寄せが起きている。だから、少しでも生産者になって、見えない負担を引き受けることが、本当の意味での社会問題の解決ではないでしょうか。そんなことを考えながら、今日もつるエネはエネルギーと向き合っています

「地域未来」という言葉をよく聞くようになりました。でも、それって具体的にどういうことを意味するのか。そんな漠然とした疑問が、いつも頭の中にあります。私たちつるエネも日々の働きを通して、地域未来を明るくしていきたいと思っています。でも、もっとこの曖昧な言葉の解像度を上げていきたい！と思いました。

「そうだ、それなら、未来に会いに行けばいいんだ！」

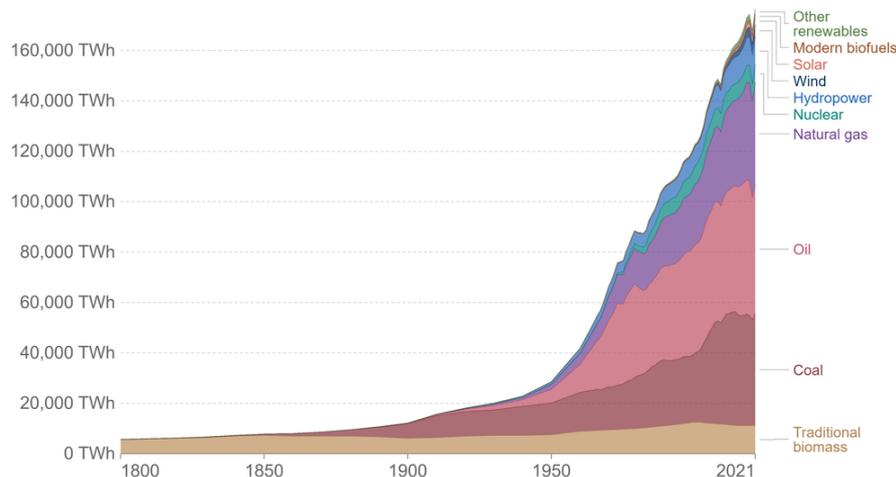
そう思った編集部員は、全国の地域未来を探しに行く旅に出ることにしました。一体、そこで何が待っているのか。乞うご期待ください。

「グラフで一目瞭然」 — 電力消費、どれくらい増えてる? —

Global primary energy consumption by source

Primary energy is calculated based on the 'substitution method' which takes account of the inefficiencies in fossil fuel production by converting non-fossil energy into the energy inputs required if they had the same conversion losses as fossil fuels.

Our World in Data



Source: Our World in Data based on Vaclav Smil (2017) and BP Statistical Review of World Energy

OurWorldInData.org/energy • CC BY

シリーズ「グラフで一目瞭然」。忙しい時間の中でも一目でわかり、客観的数値で持ってファクトを積み上げてことを目的とした本企画。

今回は、世界の電力消費量の推移。一目瞭然、1950年を境に一気に増えています。また、その増加スピードが遅くなる気配もありません。

今回の結論：世界を見ると、電力消費量は、どんどん増えている。